

第32回



# 作業療法学会

会期：2023 1/28 sat - 29 sun



作 業 療 法

未 来 会 議

いまを語り合い作業療法を創造しよう

主催／四国作業療法士会連絡協議会

担当／一般社団法人 徳島県作業療法士会





令和4年12月吉日

施設長様

四国作業療法士会連絡協議会  
第32回四国作業療法学会  
学会長 吉野 哲一



## 第32回 四国作業療法学会 学会出張について（お願い）

謹啓 師走の候、貴職におかれましては益々のご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より四国作業療法士会連絡協議会の活動に格別のご理解とご協力を承り深く感謝しております。

さて、この度第32回 四国作業療法学会を徳島県にて開催する運びとなりました。つきましては、貴施設作業療法士の学会出張に際し、格別のご高配を承りますよう謹んでお願い申し上げます。

謹白

記

会 期 令和5年1月28日(土)～29日(日)

形 式 オンライン開催  
(基地局：専門学校 健祥会学園)

主 催 四国作業療法士会連絡協議会

担 当 一般社団法人 徳島県作業療法士会

事務局 医療法人 徳寿会 鴨島病院 リハビリテーション部  
〒776-8858 徳島県吉野川市鴨島町内原 432 番地  
[TEL] 0883-24-6565

以上



# 第 32 回 四国作業療法学会

## 作業療法未来会議

～いまを語り合い作業療法を創造しよう～

学会長 吉野 哲一

会 期 令和 5 年 1 月 28 日(土)・29 日(日)  
形 式 オンライン開催  
主 催 四国作業療法士会連絡協議会  
担 当 一般社団法人 徳島県作業療法士会  
事 務 局 医療法人 徳寿会 鴨島病院 リハビリテーション部  
〒776-8588 徳島県吉野川市内原 432 番地  
TEL 0883-24-6565

後 援 (順不同)

徳島県

徳島市

一般社団法人 徳島新聞社

四国放送株式会社

一般社団法人 徳島県医師会

一般社団法人 徳島市医師会

公益社団法人 徳島県看護協会

公益社団法人 徳島県理学療法士会

一般社団法人 徳島県介護支援専門員協会

徳島県言語聴覚士会

徳島県医療ソーシャルワーカー協会

徳島県精神保健福祉協会

一般社団法人 日本作業療法士協会

---



---

# 目 次

---

挨拶 第32回 四国作業療法学会 学会長 吉野 哲一	1
挨拶 四国作業療法士会連絡協議会 会長 上田 裕久	2
祝辞 一般社団法人 日本作業療法士会 会長 中村 春基	3
祝辞 徳島県知事 飯泉 嘉門	4
学会スケジュール	5
講演・講座・一般演題プログラム	7
特別講演	17
公開講座	19
教育講座	21
一般演題 1日	35
一般演題 2日	53
第32回 四国作業療法学会 実行委員	68



---

## 挨拶



第32回 四国作業療法学会  
学会長 吉野 哲一

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、四国作業療法士会連絡協議会の活動に対しまして格別のご支援・ご協力を賜り御礼申し上げます。

さて、2022年度の四国作業療法学会は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、昨年から引き続きWebでの開催といたしました。社会的には、withコロナとして感染対策をした上で様々なイベント等が開催されるようになっておりますが、私たち作業療法士は、医療機関や保健福祉施設等で勤務する方が多く、対象者も高齢者や基礎疾患を持った方が私たちの対象とする利用者です。つまり私たち自らクラスターを招くような行為・行動は、まだまだ慎まなければならないと考え、web開催としましたこと、ご理解いただければと思います。

コロナ禍でオンラインツールは発展を見せ移動距離を伴わず交流することを可能としました。本学会もZOOMを使用し、普段他県にお越しになれない方へも学会内容を届けられるようになりました。学会テーマでもあります「作業療法未来会議～いまを語り合い作業療法を創造しよう～」は、先の見えない世の中にあり作業療法を取り巻く環境が厳しいものになったとしても、前を向いて、これからの社会で必要とされる作業療法士とは何かを考える場となることを目的としております。人が行う作業をどこまで広げて解釈し作業療法士の目で人々の暮らしを豊かにするには何が必要かを考えることが重要であると私は考えます。

たくさんの方にご参加いただき、明日以降の作業療法実践に活かして頂ければ幸いです。

最後に、2日間の開催となりますが、多くの方にご参加いただき、ご参加されます皆様にとって、実りの多い学会となりますことを祈念いたしまして、学会長挨拶とさせていただきます。

---

## 会長挨拶



四国作業療法士会連絡協議会  
会長 上田 裕久

はじめに、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症のパンデミックにより、臨床現場はもちろん、学術の分野にも大きな影響を与えていますが、本学会が関係者様や運営スタッフ皆様のお陰で無事に開催されること、心より感謝申し上げます。

また、現在でも日々感染症対策に注力され、作業療法の真価を発揮し、最前線で臨床現場で働かれている皆様に敬意を表します。

さて、今回の学会のテーマは、「作業療法未来会議 ～いまを語り合い作業療法を創造しよう～」となっております、特別講演では、東北文化学園大学医療福祉学部 リハビリテーション学科作業療法学専攻 専攻長・教授の香山明美先生より、「作業療法の未来」について、また、公開講座では、慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長・教授の前野隆司先生より、「幸福学～仕事と暮らしのウェルビーイングとは？～」についてご講演を頂きます。コロナ禍により仕事面や生活面でも色々なストレスに耐えながら日々過ごされていると思いますが、本学会を通して、作業療法の明るい未来について語り学び合い、コロナ禍だからこそ、普段学会参加に消極的な方や、ご遠方の方もオンラインで多くの学びや知恵を得ることができる機会になればと思います。

最後になりますが、本学会のために貴重なお時間を頂戴しご講演を賜ります先生方と、ご協力いただきます運営の皆様、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。ご参加される皆様には、活発な意見交換や情報収集の場として、有意義にご活用いただきますことを祈念しております。

## 祝 辞



一般社団法人 日本作業療法士協会  
会 長 中村 春基

### 第 32 回 四国作業療法学会を祝して

平素より、日本作業療法協会の活動に、ご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

この度は、第 32 回四国作業療法学会開催おめでとうございます。吉野哲一学会長の下、「作業療法未来会議」をテーマに四国の作業療法士が一堂に会し、活発な意見交換がなされることを祈念しております。加えて、本学会開催に当たりまして、ご支援ご協力を賜りました関係団体、関係者の皆様に心から敬意を表します。

さて、作業療法を取り巻く環境は、「地域包括ケアシステム」「地域共生社会の実現」に向けて、医療、介護、福祉、地域社会の領域で、大きな変化を求めていると思います。医療においては急性期、在宅医療の充実に舵が切られ、その中心に医地域医療構想が据えられています。また、介護においては、自立支援、重度化防止、自己決定支援など、在宅を中心とした取り組みが進み、福祉においては、発達障害児等の切れ目のない支援の中で、就学期、就労期、65 歳問題等々多くの課題を抱えています。

折しも、9月9日に国連障害者権利委員会より、日本の障害施策に対する総括所見がだされました。精神科病院での拘束や虐待、強制入院、長期入院、学校における合理的配慮を含むインクルーシブ教育、ハビリテーション、リハビリテーションでは、医療モデルへ憂慮、人権モデルの基づく実践など、今後の作業療法を考える上で、大きな指針となる内容と思います。大きくは人権の尊重に基づく作業療法を行っているかということになりますが、是非、ご一読いただき、それぞれの臨床を見直して頂けたら幸いです。

2023 年、協会は大きく変わります。組織改編、第四次 5 年計画のスタート等々ですが、具体の活動は士会員の皆様のご支援なしでは遂行できない事ばかりです。共に取り組んでいただけましたら幸いです。2024 年には医療、介護、福祉のトリプル改定、APOTC 開催、2025 年にはカリキュラム改定委員会、2026 年は 60 周年記念事業など、ビッグなイベントが控えております。引き続きのご支援を賜りますれば幸いです。

最後に、コロナが収束し、対面での開催ができることを、また、4 県士会の益々のご発展と、士会員の皆様のご健勝を心から祈念して祝辞とさせていただきます。

# 祝 辞

徳島県知事  
飯泉 嘉門

このたび、「第32回 四国作業療法学会」が徳島県におきまして盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

また、皆様方におかれましては日頃より、各種研修会の開催を通じ、作業療法士の資質向上にご尽力されるとともに、作業療法を通じまして、地域の医療・保健・福祉の充実に大きくご貢献いただいておりますことに、深く敬意を表し、心から感謝申し上げます。

さて、皆様ご承知のとおり、高齢化の進行や疾病構造の多様化など、昨今の医療を取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い、県民の皆様の医療に対するニーズも多様化、高度化する中、リハビリテーションの重要性が広く認識されるようになり、専門知識と高い技術を有する作業療法士の方々に対する期待と信頼は、ますます高まっております。

諸外国に例を見ないスピードで高齢化が進行する我が国では、団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向け、更なる需要の増加が見込まれる医療・介護サービスについて「提供体制の改革」が急務の課題となっています。

住み慣れた地域で、自立した日常生活を営むことができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制「地域包括ケアシステム」の構築が推進されておりますが、このシステムの構成要素のひとつに「介護予防」があります。高齢者が要介護状態となることを予防するとともに、要介護状態の軽減・悪化の防止が目的となっており、地域における「介護予防」の取組を強化するためには、リハビリテーションの専門職団体である貴学会の皆様のお力添えが不可欠であり、皆様には、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

県といたしましても、「第7次徳島県保健医療計画(H30～R5)」に基づき施策を推進しているところであります。県民の皆様の安全・安心な暮らしのため、医療と介護の連携による地域包括ケアシステムなど医療提供体制の整備に全力で取り組んでまいります。

本学会では、『作業療法未来会議 ～いまを語り合い作業療法を創造しよう～』をメインテーマに、日頃の臨床研修や研究成果を発表されるとお聞きしております。本学会が会員の皆様はじめ作業療法関係者の方々にとって、また地域の皆様方にとって実り多きものとなりますことをご期待申し上げます。

結びに、本学会の開催にご尽力された貴会並びに一般社団法人徳島県作業療法士会はじめ関係の皆様、深く敬意を表しますとともに、貴会の更なるご発展と、関係の皆様今後ますますのご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。

# 学会スケジュール

【学会1日目：令和5年1月28日(土)】

時間	会場	zoom 1	zoom 2
9			
		開会式	
10		教育講座① (シンポジウム形式) 10:10～11:10 「MTDLPを語る～概論から実践へ～」 パネリスト 河野 裕美子 (健祥会 ウェル) 瀬瀬 功 (橋本病院) 若林 佳樹 (創心會) 菅 隆一 (松山リハビリテーション病院) 安岡 希和 (土佐リハビリテーションカレッジ) 桂 雅俊 (土佐リハビリテーションカレッジ)	教育講座② 10:10～11:10 「京都府作業療法士会 こどもサポートOTチームの取り組み」 杉村 喜美子 (聖ヨゼフ医療福祉センター)
		休憩	休憩
11		教育講座③ 11:25～12:25 「作業療法士が本気で 認知症予防を考えてみた」 大浦 江美子 (特別養護老人ホーム 蓬萊荘)	教育講座④ 11:25～12:25 「災害リハビリテーションをはじめよう ～作業療法士としての役割と心構え～」 今野 和成 (総合病院国保旭中央病院)
12		昼休憩	昼休憩
13		演題発表 I 13:15～14:05	演題発表 II 13:15～14:05
		休憩	休憩
14		教育講座⑤ 14:20～15:20 「身体障害領域における活動と参加 (生活期リハの現場にて)」 高須賀 秀年 (株) ライフネット)	教育講座⑥ 14:20～15:20 「生きづらさのある人の理解と関わり」 岩根 達郎 (京都府立洛南病院)
		休憩	休憩
15		演題発表 III 15:35～16:25	演題発表 IV 15:35～16:25
16			

【学会 2 日目：令和 5 年 1 月 29 日(日)】

時間	会場	zoom 1	zoom 2
9			
10		演題発表 V 9:50～10:40	演題発表 VI 9:50～10:40
		休憩	休憩
11		特別講演 10:55～12:25 「作業療法の未来」 香山 明美 (東北文化学園大学医療福祉学部 リハビリテーション学科作業療法学専攻専攻長・教授)	
12		昼休憩	昼休憩
13		演題発表 VII 13:15～14:05	演題発表 VIII 13:15～14:05
		休憩	休憩
14		公開講座 14:20～15:50 「幸福学 ～仕事と暮らしのウェルビーイングとは?～」 前野 隆司 (慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント 研究科 教授 慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長)	
15			
		閉会式	
16			

---

# 講演・講座・一般演題プログラム

## 特別講演

【第2日】 1月29日(日) zoom1 10:55~12:25

『作業療法の未来』

東北文化学園大学医療福祉学部 リハビリテーション学科 作業療法学 専攻  
専攻長 教授 香山 明美

## 公開講座

【第2日】 1月29日(日) zoom1 14:20~15:50

『幸福学～仕事と暮らしのウェルビーイングとは?～』

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科  
慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長・教授 前野 隆司

## 教育講座

<教育講座①> 【第1日】 1月28日(土) zoom1 10:10~11:10

『MTDLP を語る～概論から実践へ～』(シンポジウム)

パネリスト

健祥会 ウェル	河野 裕美子
橋本病院	瀬瀬 功
創心會	若林 佳樹
松山リハビリテーション病院	菅 隆一
土佐リハビリテーションカレッジ	安岡 希和
土佐リハビリテーションカレッジ	桂 雅俊

<教育講座②> 【第1日】 1月28日(土) zoom2 10:10~11:10

『京都府作業療法士会 こどもサポート OT チームの取り組み』

聖ヨゼフ医療福祉センター 杉村 喜美子



<教育講座③> 【第1日】 1月28日(土) zoom1 11:25~12:25

『作業療法士が本気で認知症予防を考えてみた』

特別養護老人ホーム 蓬莱荘 大浦 江美子

<教育講座④> 【第1日】 1月28日(土) zoom2 11:25~12:25

『災害リハビリテーションをはじめよう～作業療法士としての役割と心構え～』

総合病院国保旭中央病院 今野 和成

<教育講座⑤> 【第1日】 1月28日(土) zoom1 14:20~15:20

『身体障害領域における活動と参加（生活期リハの現場にて）』

(株) ライフネット 高須賀 秀年

<教育講座⑥> 【第1日】 1月28日(土) zoom2 14:20~15:20

『生きづらさのある人の理解と関わり』

京都府立洛南病院 岩根 達郎





## 一 般 演 題

<1日目>

【第1日】 1月28日(土) zoom1 13:15~14:05

セッションⅠ：脳血管疾患Ⅰ 座長：山本 太一（医療機関併設型小規模介護老人保健施設 王子苑）

I-1

左被殻出血後，飲料用水1ケースを棚に上げられるようになり職場復帰出来た一症例

済生会今治第二病院 櫛部 拓也

I-2

小脳梗塞により運動失調を呈した症例

～洗濯動作に着目した上肢機能への介入～

愛宕病院 分院 中西 健太

I-3

外泊訓練の重要性について

～共有ノートの使用～

専門学校 健祥会学園 田村 恭佑

I-4

HAL-SJに簡略化したTransfer packageを追加して麻痺手使用頻度が増加した事例

徳島大学病院 大前 博司

【第1日】 1月28日(土) zoom2 13:15~14:05

セッションⅡ：精神障害・認知症 座長：中越 太一（しごと・生活サポートセンターウェーブ）

Ⅱ-1

精神科作業療法とWRAPの親和性

西紋病院 吉川 敦

Ⅱ-2

「散歩を通して自信の回復により，ADLが向上した症例」

赤沢病院 浅野 隆三





II-3

術後せん妄を起こした認知症患者の作業療法士としての関わり

愛媛県立中央病院 上甲 早苗

II-4

認知症は脳だけじゃない！脳・内臓・筋・心の4つへアプローチすることで改善した事例

カメラアデイサービス 日下 真理子

**【第1日】 1月28日(土) zoom1 15:35~16:25**

**セッションIII：脳血管疾患II**

**座長：河村 和也 (稲次病院)**

III-1

体性感覚・視覚情報を取り入れたアプローチを通して介助量の軽減を目指した症例  
～長座位の特徴を活かした介入～

白菊園病院 山本 沙耶

III-2

転移性頭蓋骨腫瘍を呈した患者に対する在宅復帰を目指した介入

市立宇和島病院 河野 佑亮

III-3

早期の排泄誘導をきっかけにせん妄が改善した事例

博愛記念病院 玉井 貞好

**【第1日】 1月28日(土) zoom2 15:35~16:25**

**セッションIV：内科**

**座長：篠森 丞 (松山赤十字病院)**

IV-1

重症 COVID-19 を罹患後にせん妄を呈した一症例

香川県立中央病院 柴原 章平



---

IV-2

低栄養により寝たきりとなった独居高齢者に対する ADL 改善への取り組み

三豊総合病院 片桐 悠也

IV-3

作業療法士の介入による入院患者の行動改善の検討

高知高須病院 山本 美保

IV-4

在宅生活者の熱中症対策

ー行動変容があった症例についてー

鴨島病院 大岡 誠延

< 2 日目 >

**【第 2 日】 1 月 29 日(日) zoom1 9:50~10:40**

**セッション V : その他 I (研究) 座長: 岡村 忠弘 (脳損傷友の会高知 青い空)**

V-1

神経心理学検査の結果で入院中の転倒の有無に差はあるのか

～脳神経外科・脳神経内科患者での検討～

徳島県立中央病院 永野 達郎

V-2

脳血管疾患患者の起き上がり動作に関する因子の検討

小松島病院 日下 恭平

V-3

認知症、認知機能低下のある患者に対する作業療法の取り組みの現状と課題

～一般病院における実践～

キナシ大林病院 山地 早紀

V-4

当院外来呼吸リハビリテーションの現状と課題

松山赤十字病院 高岡 宏



【第2日】 1月29日(日) zoom2 9:50~10:40

セッションVI:運動器I

座長:石井 誠二(回生病院)

VI-1

長母指屈筋腱癒着に対する剥離術後のハンドセラピー  
～スプリント療法に着目した一考察～

香川大学医学部附属病院 大浦 敦樹

VI-2

選択的手内在筋訓練中の母指CM関節症罹患関節の動態

高知大学医学部附属病院 大石 大

VI-3

手根管症候群患者の母指回内角度とCTS I-JSSH機能的状態のスケールとの関連性の検討

徳島県鳴門病院 鶴代 奈月

VI-4

デジタルゴニオメータを用いた母指回内角度測定法の検者間信頼性

徳島県鳴門病院 山家 恭平

【第2日】 1月29日(日) zoom1 13:15~14:05

セッションVII:その他II(教育・地域)

座長:長尾 亜紀子(四国医療専門学校)

VII-1

徳島県における作業療法士の就労支援実態と課題

サービス付き高齢者向け住宅 久千田 村上 義和

VII-2

急性期から退院後に再入院となる要因に関する実態調査

近森病院 大坪 航希

VII-3

ラダーステップ実施による当院リハビリテーション科の人材育成の経過について

きたじま田岡病院 船越 稔



---

【第2日】 1月29日(日) zoom2 13:15~14:05

セッションⅧ：運動器Ⅱ

座長：角野 國雄 (小松島病院)

Ⅷ-1

職場との連携や環境調査の重要性を感じた一症例  
～広背筋移行術後の復職支援を経験して～

大洲記念病院 高本 日向

Ⅷ-2

大腿骨腫瘍に対し大腿骨全置換術を施行した症例の作業療法—早期自宅退院を目指して

三豊総合病院 中村 彩紗

Ⅷ-3

幼児における Functional Reach Test の有効性の検討

～重心前方移動距離に着目して～

土佐リハビリテーションカレッジ 稲富 惇一

Ⅷ-4

転倒と転落に対するチーム医療

住友別子病院 一色 学



特 別 講 演

公 開 講 座

教 育 講 座





## 『作業療法の未来』

東北文化学園大学医療福祉学部  
リハビリテーション学科 作業療法学 専攻  
専攻長 教授 香山 明美

### はじめに・作業療法の定義

理学療法士及び作業療法士法では「『作業療法』とは、身体又は精神に障害のある者に対し、主として その応用的動作能力又は社会的適応能力の回復を図るため、手芸、工作その他の作業を行なわせることをいう。」と定義されている。2018年5月に改訂された日本作業療法士協会の作業療法の定義は、近年作業療法士に求められるニーズに対応できるものとして改められた。

これまで作業療法士は理学療法士と共に医療職として養成され、多くの作業療法士は医療を基盤にその業務を行ってきた。応用的動作や社会的適応能力の回復に貢献するためには、あるいは人々の健康と幸福を促進するためには、医学的知識を基盤に対象者の生活をより身近なところで支援できる知識と技術が求められている。

### COVID-19 を経験して

2019年12月以降全世界に拡大した新型コロナウイルス感染症は多くの命を奪うだけでなく国民の生活は自粛・制限を強いられ、作業療法士の臨床現場や養成教育にも大きな影響を与えている。我々がこれまで遭遇したことのない大きな災害であるという観点で考えれば、これまでの大災害で経験した作業療法士の役割が活かされるはずである。

平時から多職種、行政との連携を強化し、支援対象者は、その地域に住む一人の生活者として、地域包括ケアシステムへのスムーズな移行が重要であることを認識し支援し続けることが重要となる。

### 地域包括ケアシステムに資する作業療法士の姿

2025年を目途に進められている地域包括ケアシステムの中で作業療法士が貢献するためには、今までの作業療法士の役割に加え多様な場所で多様な役割を果たす必要がある。その地域課題を明確化し必要な資源の創造、専門職間の連携ばかりでなく住民との交流等、様々な課題に取り組む必要がある。

---

## 作業療法の未来

医療や保健、福祉等という概念を超え、作業療法士が働くそれぞれの立場で、対象者が地域の中で生活していくことを支援できることで作業療法が国民に選ばれ続けるサービスとなる。以下の3点で整理をしたいと思います。

- ・医療における早期退院・重度化防止に向けた取り組み
- ・医療・介護・保健・福祉の取り組みと連携強化（特にアウトリーチ型の支援の重要性）
- ・地域共生社会の実現に向けた取り組み（住民の力を引き出す支援）

おわりに・未来永劫変わらないこと

「作業療法士は作業を用いて人を元気にしていく」このことは普遍なのである。

### 【略歴】

- 1983年 宮城県立名取病院勤務  
2003年 社会復帰科 作業療法係長  
2006年 宮城県立精神医療センター リハビリテーション科長  
2011年 地方独立行政法人県立病院機構 宮城県立精神医療センター  
リハビリテーション科長（上席主任作業療法士）  
2014年 同 地域支援科長兼訪問看護ステーション長  
2016年 みやぎ心のケアセンター 地域支援課長補佐  
2018年 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科作業療法学専攻教授  
2020年 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科作業療法学専攻  
専攻長・教授

### 学会活動

専門作業療法士：精神科急性期

（一社）日本作業療法士協会副会長（事務局長） 東北精神保健福祉学会理事  
臨床精神障害作業療法研究会理事 他

### 【著書】

- ・セラピストのための認知症家族支援マニュアル. 文光堂. 2018
- ・生活を支援する精神障害作業療法 第2版, 医歯薬出版, 2014.
- ・共著：作業療法学全書第5巻作業治療学2精神障害. 協同医書出版社, 2010
- ・作業療法の面接技術－ストーリーの共有を目指して－. 三輪書店. 2009 他



## 幸福学 ～仕事と暮らしのウェルビーイングとは?～

慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科  
慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長・教授  
前野 隆司

幸福経営学の基礎について述べる。講演者の定義によると、幸福学とは、幸せに関する学問の総称であり、心理学を中心にしながら、幸せなモノづくり、コトづくり、組織づくり、街づくりなどの応用分野も含む。一般には、Well-Being and Happiness Study と呼ばれる。Well-Being とは、良い状態のことであり、辞書によると健康、幸せ、福利、福祉と出ている。つまり、体と心の良い状態のことを Well-Being という。Happiness は幸せの直訳だと考えられがちだが、より感情的な側面に特化した単語である。講演では、まず、幸せには長続きしない幸せ（地位財を得たことによる幸せ）と長続きする幸せ（非地位財による幸せ）があることを述べる。

次に、非地位財による幸せのうち、心的要因についての因子分析を行って求めた「幸せの4つの因子」について述べる。4つの因子とは、やってみよう因子（自己実現と成長の因子）、ありがとう因子（つながりと感謝の因子）、なんとかなる因子（前向きと楽観の因子）、ありのままに因子（独立と自分らしさの因子）である。クラスター分析も行なった結果、これら4つがいずれも高いグループがもっとも幸せなクラスターであった。つまり、4つの因子全てが高い状態が幸せな状態であると考えられる。すなわち、夢や目標を持ち、多様な仲間と助け合い、前向きかつ自分らしく生きる人である。仕事に当てはめると、やらされ感ではなくやりがいを感じ、生き生きワクワクしながら周りの社員と信頼関係を構築し助け合いながら仕事をしていて、前向きに自分らしくリスクをとってチャレンジしている社員は幸せである。私たちは、それぞれの仕事や活動を通して、全ての人が幸せに生きることのできる世界を構築すべきであるといえよう。

---

【略歴】

1984年東京工業大学卒業

1986年同大学修士課程修了

キャノン株式会社、カリフォルニア大学バークレー校訪問研究員、ハーバード大学訪問教授等を経て現在慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授。慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長兼務 博士（工学）

【著書】

『ディストピア禍の新・幸福論』（2022年）

『ウェルビーイング』（2022年）

『幸せな職場の経営学』（2019年）、『幸せのメカニズム』（2013年）

『脳はなぜ「心」を作ったのか』（2004年）など多数

日本機械学会賞(論文)（1999年）、日本ロボット学会論文賞（2003年）

日本バーチャルリアリティー学会論文賞（2007年）などを受賞

専門は、システムデザイン・マネジメント学、幸福学、イノベーション教育など

MTDLP を語る  
～概論から実践へ～

<パネリスト>

健祥会 ウェル 河野 裕美子

橋本病院 瀬瀬 功

創心會 若林 佳樹

松山リハビリテーション病院 菅 隆一

土佐リハビリテーションカレッジ 安岡 希和

土佐リハビリテーションカレッジ 桂 雅俊

作業療法士は、応用的動作能力や社会適応動作能力を回復させる専門職であり、生活行為向上マネジメント（以下、MTDLP）は、作業療法の手法を示し、患者へのアプローチを「見える化」したものである。MTDLP は 2008 年より老人保健健康増進等事業の助成を受けて開発・効果検証がなされ、2015 年から生活行為向上マネジメント推進プロジェクトにより、広く啓発普及が図られてきた。

現在、各県の作業療法士会では MTDLP について「基礎研修会」、「実践者研修会」、「書き方研修会」など実施されている。また、一般社団法人日本作業療法士協会から MTDLP 全国推進会議が実施されることもあり、四国の MTDLP 推進者同士がディスカッションしている。その中で、各士会単独では研修の内容刷新が進まない、参加者が限定的である、などといった課題が見えてきた。

そのため、今回推進者が協働し、四国地区におけるシンポジウムを企画した。各県から MTDLP 活用事例や学生に対しての MTDLP 実習指導事例、基礎研修修了後の学習方法など提示したい。

このシンポジウムによって、多くの作業療法士の技能向上に役立てば幸いである。さらに、作業療法を通し地域包括ケアの質を向上させ、国民のために役立てていきたい。



京都府作業療法士会 こどもサポート  
OT チームの取り組み

聖ヨゼフ医療福祉センター  
杉村 喜美子

2007年(平成19年)京都府作業療法士会に特別支援教育OTチーム(現こどもサポートOTチーム)が誕生し15年が経過した。本講座ではチーム設立からの取り組みを振り返りながら、都道府県士会として継続していくポイントや課題について述べていきたい。

2007年は改正学校教育法により、全ての学校において特別支援教育を推進することが周知された年であり2年間で専門の支援員を3万人に拡充する方針が打ち出された。このことを、これまでの個人としてのつながりではなくOTが組織(都道府県士会)として学校教育に関わる絶好の機会であると考え、

- ① 学校と個人の連携からシステムの連携へ
- ② 作業療法の啓発と地域貢献
- ③ 学校での子どもたちの姿を作業療法士が知る(医療・福祉での作業療法の充実ならびに学校での作業療法モデルの構築へ)
- ④ OT卒後教育の充実

を目的に特別支援教育OTチームを設立した。

チームが最初に取り組んだことは、OTを理解してもらうための広報活動であった。初年度は学校訪問32件、約50ページの冊子(特別支援教育に活かす作業療法の知と技)650部の発行と京都府内の学校・文部科学省への送付、OTと教育関係者向けの講演会の開催と精力的な活動を行った。これらの活動はOTを知ってもらうための活動として非常に有効であった。活動の4本柱として①学校訪問②研修会③冊子作成orプロジェクト④学会発表を現在も継続して取り組んでいる。

初年度の費用はすべて府士会予算から賄っている。しかし府士会の予算は限られているため、活動を継続していくために持ち出しを少なくしていく工夫が必要であった。外部からの資金や学校側から公的な予算でOTを活用してもらえるようになった例についても当日述べていく。

15年間の活動を通して京都の学校教育において、OTの知名度は高くなってきた。その中で特別支援教育において何を目指していくのか目標設定の難しさも感じている。コロナ禍

---

も影響し、学校に行くことができる作業療法士が限定されチームメンバーの経験差も開いてきている。また職場の業務とチームの業務でメンバーの過度な負担になっていることも多く、人材不足をどう補うかも課題となっている。今年度「こどもサポート OT チーム」に名称を変更した経緯や今後の活動についても述べていきたい。

**【略歴】**

鳴門教育大学卒

愛媛県にて小学校教諭として勤務

愛媛十全医療学院卒

2001年から聖ヨゼフ医療福祉センターにて勤務

現在に至る



## 作業療法士が本気で 認知症予防を考えてみた

特別養護老人ホーム 蓬莱荘  
大浦 江美子

私の職場に、前県士会長から電話がかかってきたのは今から7年前でした。  
「県士会に認知症の委員会を作りたい」  
「地域で認知症予防をテーマに研修を依頼された時に、会員が持てる武器を作ってほしい」というのが、私に課された命題でした。

その時の私は、認知症予防という観点でのアプローチは経験がなく、認知症予防について、漠然としか捉えられていなかったように思います。

当時は一般的に認知症予防と言われると、デュアルタスク課題を行っていたことが多かった時代。最初は4人で始めた認知症支援推進委員会でも、このデュアルタスクや記憶課題をDVDにする方向で話が進んでいました。

しかし、私の中で「これって本当に意味があるのかな」という気持ちがぬぐえませんでした。認知症って、誰もがなる病気なのに、予防って…。

そして、委員会の人みんなに、待った！を掛けました。

それから、認知症予防について、地域が私たちに求めていることについて、作りたい社会を構築するために必要なことについて、真剣に考えました。

その結果、様々な紆余曲折を経て出来上がったのが、今までにない介護予防ツール“ラシーサカード”です。

当日は、認知症予防ツールではなく、介護予防ツールとなったラシーサカードの作成経緯や、私たちの中に生まれた一つ一つの疑問について、私たちが出した結論をお話しながら、皆さんにも、作業療法士しかできない認知症予防や介護予防について、考えるきっかけ

---

けになればと思います。

そして、地域の皆さんに「やっぱり、作業療法士さんがいてくれて良かったね」と思ってもらえるような、地域活動を展開して行ってほしいと思います。

**【略歴】**

1998年～ 国立善通寺病院附属リハビリテーション学院 卒業  
医療法人桜樹会 桜木病院 認知症治療病棟 入職

2014年～ 特別養護老人ホーム蓬萊荘 入職

2015年～ 徳島県作業療法士会 理事  
認知症支援推進委員会 委員長

現職



## 災害リハビリテーションをはじめよう ～作業療法士としての役割と心構え～

総合病院国保旭中央病院  
今野 和成

日本は「自然災害大国」と呼ばれ、これまでも度々大きな災害に見舞われてきました。災害医療においては、1995年の阪神淡路大震災で発災直後の医療活動が遅れたことなどの反省から、一人でも多くの命を助けるため、2005年に「災害派遣医療チーム（DMAT）」が発足、以降も「JMAT」や「DPAT」など、様々な災害支援チームが、その後の災害において支援活動を行なっています。

一方、災害リハビリテーション支援活動においては、2011年の東日本大震災の際に、リハ関連の各職能団体が連携して被災地での支援活動を行なったことがきっかけとなり体制整備が進み、災害リハ支援チーム「JRAT」が発足、その後の災害においても被災都道府県の「地域 JRAT」が中心となり支援活動を展開しています。

また近年では、リハビリテーション専門職だけではなく、様々な専門職の支援チームがその専門性を生かした支援活動を展開しており、災害医療においても多職種連携・他機関連携で、長期にわたるシームレスな支援が求められてきています。

日本作業療法士協会としても、これまでの国内外の大きな災害において、被災した都道府県士会と連携しながら都度対応しているところではありますが、2013年に災害対策室を設置してからは、災害発生に備えて平時からも体制整備や人材育成等に取り組んでいるところです。

ひとたび大きな災害が発生すると、私たちは様々な難題に一度に直面することとなります。そのような状況下で災害支援活動を行うには、平時からの備えが非常に重要です。災害支援活動は、平時からの一人一人の取り組みや職能団体としての地域への貢献、言わば「地域リハビリテーション」の延長線上にあります。豪雨などの気象災害が頻発かつ激甚化している昨今、日々の臨床実践においても災害リハビリテーションの視点を生かした備えや取り組みを取り入れることがますます重要になってくると考えています。

本講演では、「災害リハビリテーションの概要」と、「災害リハビリテーション支援活動の実際」を紹介しながら、「災害支援における作業療法士の役割や心構え」について解説したいと思います。本講演を通じて、皆さんひとりひとりが、次の災害にどう備えるか？

---

災害発生時に何が出来るか？考えて頂ければ幸いです。

**【略歴】**

学歴：2001年 国際医療福祉大学 保健医療学部 作業療法学科 卒業

職歴：2001年 総合病院国保旭中央病院 リハビリテーション科 入職  
現在に至る

**【災害リハビリテーション支援活動の経験】**

2011年 東日本大震災

日本作業療法士協会災害支援ボランティアとして、宮城県石巻市の福祉避難所、ならびに同県気仙沼市の一次避難所等で活動

2016年 熊本地震

JRAT 現地活動本部・調整本部、ならびに JRAT 東京本部でのロジスティクス業務に従事

2018年 7月豪雨（西日本豪雨）災害

岡山 JRAT 現地活動本部でのロジスティクス業務に従事

2019年 房総半島台風被害

千葉県災害医療本部に千葉 JRAT のリエゾン要員として従事

**【現職】**

・地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

診療技術局リハビリテーション科 作業療法士長補佐

・（一社）日本作業療法士協会 災害対策室 室員

・（一社）千葉県作業療法士会 副会長 災害対策委員会 委員長

・（一社）日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT） 広報委員会 委員

・千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会（千葉 JRAT） 幹事

・（公財）国際医療技術財団（JIMTEF） 災害医療委員会 委員



## 身体障害領域における活動と参加 (生活期リハの現場にて)

(株) ライフネット  
高須賀 秀年

年齢21から身体障害領域の作業療法士を生業とし、お陰様で現在もその道を歩かせて頂いております。20代は慢性期病院、30代は回復期病院にて勤務し様々な知見を得る事が出来ました。そして現40代、介護保険分野にてデイサービス勤務を経、現在は訪問リハビリに従事しています。

講座タイトルにもあります「活動と参加」は今昔より云われており、昨今、益々Needsの高まりを感じています。恥ずかしながら、約20年の病院勤務時代、所謂、訓練室や病室などで訓練治療をしている時は、実際の社会参加・活動参加という視点は、退院という一定の区切りがあるが故か、今一はっきりとしたビジョンが描けずにいると思います。

現在、介護保険分野に身を置き、それでも、身体機能回復を欲して止まない70~80代のお父さん、なるべく世話が掛からないようにしてほしいご家族、配偶者に先立たれてしまい、自身初の独居生活が始まった80~90代のお母さん等、生々しい生活場面に寄り添っています。そんな中、幸いにもと云いますかやっとと云いますか、20年の病院勤務で得た知見が、実際の生活現場で仕事をする中で様々なファクターと融合し「活動参加」が促されていく体験をしています。

この分野は、対象者からの申し出がなければ、リミット(退院)がありません。何年という年月を共有し、地道に毎回コツコツと関わりを持つ事が出来ます。時には自身の再発・再入院などといったアクシデントや先の親近者の死など、様々なトラブルに見舞われます。ですが、それも生活であり、それが生活であり人生の一部と受け止め、0スタートになりながらも、諦めずに生活再建に勤しんでいますと、ある日、突然の変化が起こります。

リハビリにおいて、当然、様々な目標を立て、それに向かってサービスを提供する訳ですが、改めて、生活リハビリを担当する「作業療法士の視点」が、如何に「活動と参加」を推進していくのに重要であるか。また、これこそが私達の専門性であり、私達にしか出来ない仕事ではないかと考えています。

今学会のテーマ「作業療法未来会議~いまを語り合い作業療法を創造しよう」

教育講座などと鳥澁がましい…  
皆さんと語り合いたいと思います。

### 【略歴】

1996年 愛媛十全医療学院 作業療法学科 卒業  
1996年 一般財団法人 山梨整肢更生会 富士温泉病院 作業療法科  
2003年 医療法人財団尚温会 伊予病院 リハビリテーション部 新卒者教育担当  
2014年 (株)ライフネット リハビリテーション課 係長

### 【著書】

活動分析アプローチ –中枢神経系障害の評価と治療–  
山本伸一 伊藤克浩 小菅久美子 高橋栄子 編著 共著 2005年 青海社  
環境適応 実践実技ノート –中枢神経障害への知覚的アプローチ–  
高橋栄子 編著 共著 2020年 三輪書店  
体幹-肩甲骨 ～上肢空間操作における末梢操作の重要性～  
：第7回 四国ブロック活動分析研究大会誌：6, p67, 2017  
肩甲帯の構造と機能 第30回 活動分析研究大会誌：p254, 2018

他多数

### 【公的活動】

(一社) 山梨県作業療法士会 学術部長：1998年～2002年  
(公社) 愛媛県作業療法士会 学術部長：2009年～2015年  
南松山病院リハビリテーション部 非常勤講師：2016年～2019年  
特別養護老人ホーム 高縄荘 職員リハ研修講師：2016年～現在に至る  
サテライト型特別養護老人ホーム あやめ荘 職員リハ研修講師：2016年～現在に至る  
環境適応講習会 四国支部代表 講師：平成23年～現在に至る  
四国環境適応講習会インフォメーションコース統括：2017年～現在に至る  
活動分析研究会 愛媛県代表：2003年～現在に至る

### 【修了講習会】

CVA Basic Course for Neurological Rehabilitation based upon the Bobath Concept  
修了 2000年(ボバース記念病院 古澤)



## 生きづらさのある人の理解と関わり

京都府立洛南病院

岩根 達郎

作業療法は人々の健康と幸福に寄与する職である。様々な疾患や障害、困難さのある人を対象に、その人がより良く生きようとする事へ作業という視点で関与していく。近年の臨床では、対象となる主疾患による障害や困難さだけでなく、「生きづらさ」のある人に出会うことが多い。その生きづらさは主疾患による障害や困難さから生じているものもあれば、それとは直接的な関係はないものとして生じているものもある。生きづらさには多様なものがあり、それぞれに辛い感覚がある。生きづらさのある人は、作業療法の対象者だけでなく、街のなかにも、あなたのそばにもたくさんいる。

当日は、生きづらさのある人の理解と、作業療法は何ができるのかを考える機会としたい。

---

【略歴】

2000年 藍野医療福祉専門学校作業療法学科 卒業  
2011年 佛教大学社会福祉学部 卒業  
2021年 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻 修士課程修了

1996年 (株) ベリープロジェクト 入職  
2000年 医療法人恒昭会藍野花園病院 入職  
2005年 京都府立洛南病院 入職 現在に至る

現在のフィールドや関心ごと：

精神科救急（日本精神科救急学会理事、専門作業療法士）  
精神科デイケア  
就労支援（山城北圏域自立支援協議会就労部会）  
DPATインストラクター  
（災害派遣精神医療チーム：Disaster Psychiatric Assistance Team）  
認知機能リハビリテーション（CEPD研究会理事）  
精神障害者フットサル（日本ソーシャルフットボール協会地域推進委員統括）  
精神障害者バスケットボール（日本ソーシャルバスケットボール協会地域推進委員）  
まちづくり、医療観察法、WRAP（WRAP®ファシリテーター：男前）、生きづらさなど

【著書】

『主観的感觉と生きづらさに寄り添う～精神科作業療法士が伝えたい臨床思考ケースブック～』（編著） メジカルビュー社、2021年  
『精神科作業療法の理論と技術』（共著） メジカルビュー社、2018年  
『標準作業療法学 精神機能作業療法学第3版』（共著） 医学書院、2020年  
『精神科臨床とリカバリー支援のための認知リハビリテーション』（共著）  
北大路書房、2020年  
『医療観察法と司法精神科作業療法；臨床ハンドブック』（共著） シービーアール、  
2022年

【現職】

京都府立洛南病院 リハビリテーションセンター総括  
専門作業療法士（精神科）／精神保健福祉士 岩根達郎  
WRAP ファシリテーター（男前）、DPAT インストラクター  
〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄広岡谷2番地

